

思いを形に！自分たちの目標

○目標となる資質・能力

自治集団づくりに資する力、仲間づくり・絆づくりに資する力、コミュニケーション能力

○指導のねらい

学級目標や行事へのクラス目標づくりの際に、一人一人が主体的に参加するための目標決定を行うことで、クラスの一員としての責任を果たそうとする態度を養う

○準備するもの

目標を書いた模造紙等、画用紙等×児童数、ワークシート×児童数

○教育課程、実施時期

特別活動、年度はじめや行事の前等

○留意点など

成果物は一定期間目に見える場所に掲示し、活用方法を工夫すること

※展開例では行事に向けた目標づくりを例に挙げる

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習を知り、見通しを持つ	・決定した目標を発表し、自分たちの目標にしていくことを伝える
展開 35分	行事に向けて自分ができることを考えよう	
	2 目標を実現するために、自分ができることを考える	・目標を実現するために、一人一人ができることについて考えさせる ・具体的な言葉で、プラスの表現になるよう留意する
	3 目標を実現するために、自分がみんなにしてほしいことを考える	・目標を実現するために、みんなにしてほしいことを考えさせる ・具体的な言葉で、プラスの表現になるよう留意する
	4 自分ができること、みんなにしてほしいことをグループ内で話し合う	・自分ができることを理由とともに発表し、より具体的な表現にブラッシュアップさせる ・みんなにしてほしいことを話し合わせ、グループとしての意見をまとめさせる
	5 みんなにしてほしいことを全体で交流し、クラス全体ですることにする	・理由を説明しながら発表し、似たような表現はまとめさせ、合意形成をはかる
まとめ 5分	6 自分ができることを小さい画用紙に書き、目標の周りに貼る	・自分ができることを用意した小さい画用紙等記入させ、目標の周りに貼らせる
	7 学習を通して気づいたこと、考えたことを振り返り、感想をワークシートに記入する	・一つの目標に向けて力を合わせるためには各自が力を尽くすことが大切だと知らせ、行事に向けて全員が当事者となる必要だと伝える

○「決定した目標」について

目標決定時に、子どもたちがどのような思いで行事等に臨みたいのかを聞き出しながら、教員は行事等を通してどうなしてほしいかを具体的な姿を示し、目標を設定していく。目標については、おそらくスタート時の子どもたちの思いは漠然としている。「協力したい」「最高の思い出にしたい」等、新しい学級や行事への期待を抱きながらも具体的なイメージにはつながっていない。そこで、学級全体としての目標は、行動目標としてはっきりさせ、それができたかできなかったかの振り返りができるよう留意する。ただし、ここでいう行動目標は結果（「優勝する」「金賞を取る」等）を指すものではなく、行事や生活を通して身に付けたい力や過程を大切にすることにしたい。

○「自分ができることを考える」について

活動を一部の子どもだけの活動にしないために、他の児童に積極的な参加を促すことが必要となる。自治集団づくりにおいては、集団の中での個人の在り方を指導することが必要となる。集団は目的があることで、形を維持することができる。その形づくりは一部の子どものリーダーシップだけに任せるものではない。子どもたち一人一人が考えて動いているか、集団のために自分は何ができるかを問うことで、一人一人の帰属意識は高くなり、達成感を得ることができる。ここでは、目標に合わせて掲示することを念頭に、肯定表現にするとという条件を設ける。それは、否定的な表現が視覚化された場合、前向きに実践していくことが難しくなるためである。例としては、「練習が始まる前に準備を率先して行う」「表情を良くして大きな口を開けて歌う」等のように、具体的かつ肯定的な表現で行動目標となるよう留意する。

○「みんなにしてほしいことを考える」について

この活動は、目標達成のためのルールづくりにもなる。「学級をもっと良い集団にするためには、みんながどういふことができれば良いのか」を問いかける。そして、子ども一人一人が仲間にしてもらいたいことを言語化させ、理由とともに共有し合う。例としては、「失敗しても優しい言葉をかけてほしい」「練習をどのクラスよりも1番に始められるようにしてほしい」等のように、具体的かつ肯定的な表現になるようにする。決定に際しては、話し合いを通して、学級全体で合意形成をはかることが大切である。なお、学級全体で決められた「みんなにしてもらいたいこと」は「学級の約束〇カ条」等のタイトルを付けて、学級目標とともに掲示することが望ましい。

○「目標の周りに貼る」について

子どもたち一人一人の学級のために自分がすることを画用紙や色紙等に清書させる。この活動は、自分自身の目標を視覚化するとともに、目標を支えるための一員であるという自覚を促すのに有効である。画用紙は手型や風船等、目標に合うように工夫してもよい。個人で書かせた目標は学級全体の目標に各自で貼らせることで、学級目標への積極参加を促したい。

○「振り返り」について

完成した学級目標を示しながら、これからの活動に希望を持たせて終えるようにする。なお、作成された目標はつくただけで終わらないよう、日常生活の中で、行事で、トラブルが起きたとき等、まずは教員から注目させるような言葉かけをし、子どもたちに意識させるよう留意する。目標やルールは、子どもたち自身が自分たちに必要だと思うことを自分たちの言葉で書いたものである。活動の際に「今、クラスはどんな雰囲気か」「先生から見ると〇〇のように見えるけど、みんなはどう思うか」等、問いかけをすることで、子どもたちに考えさせ、振り返らせることが重要である。

- 「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」（文部科学省）
- 「学級・学校文化を創る特別活動 中学校編」（文部科学省）
- 「クラスのちからを生かす」（プロジェクトアドベンチャージャパン）

思いを形に！自分たちの目標

年 組 番 名前

- 1 目標を達成するために「私」ができることを考えよう。
 - ・目標達成に向けて「何が」できるかを具体的に書こう（学級のためにできること）。
 - ・「～しない」ではなく「～する」という書き方で書くこと。

「私」の目標

理由

- 2 目標を達成するため「私」がみんなにしてほしいことを書こう。
 - ・「～しないでほしい」ではなく「～してほしい」という書き方で書くこと。

みんなにしてほしいこと

理由

- 3 今日の活動で感じたことやこれからの思いを書こう。

参考

参考に目標のレイアウトを示す。学級や掲示場所によって工夫されたい。

